地域住民の皆様

令和8年9月

「寛永行幸四百年祭」について

今年は、1626（寛永3）年に、徳川幕府が後水尾天皇を二条城にお迎えした「寛永行幸」から400年目に当たります。その節目に、京都府・京都市・京都商工会議所をはじめとするオール京都のプロジェクトとして、「寛永行幸」の行事を再現し、当時の京都で花開いた「寛永文化」を振り返る記念祭「寛永行幸四百年祭」を、文化庁にもご支援いただきながら、京都一帯で実施しています。

今年12月には、四百年祭の象徴的な事業として、後水尾天皇の行幸行列を、330人規模で再現する時代行列イベントを開催させていただきます。時代行列は、2～3時間かけて、京都御苑から二条城まで向かう予定です。行列ルートの沿道、周辺にお住いの皆様方には、交通規制等、大変ご迷惑をお掛けいたします（交通規制等の詳細については、後日あらためてご案内いたします）。

何卒、ご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【行幸行列再現の概要】 ※荒天中止

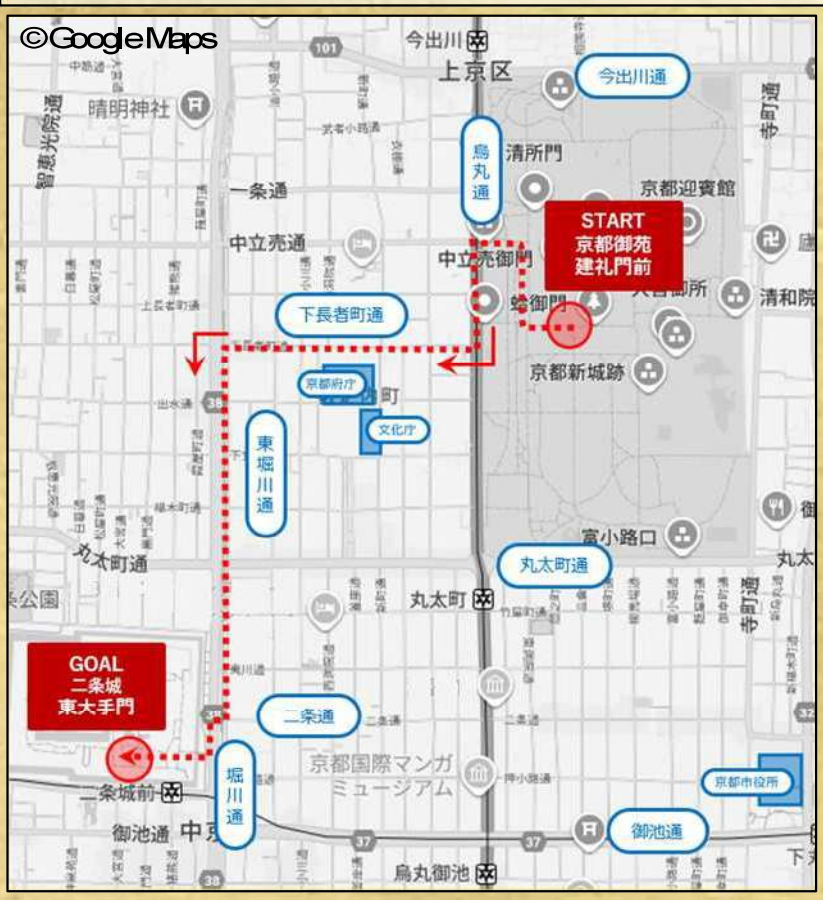
日　時：**2026年12月6日（日）** 午後0時30分頃に京都御苑出発。午後3時頃に二条城到着

ルート：京都御苑～二条城（約3km）

内　容：行幸行列の主要シーンを、330人規模で再現（牛車2両、馬15頭も配置予定）

楽人による雅楽演奏を再現

装束を着た参加者による観覧席を、京都御苑内に設置（沿道に観覧席はございません）



（行列のルート）

京都御苑（建礼門前）出発 ⇒

京都御苑（中立売御門）通過⇒

烏丸通南下（下長者町通へ右折）⇒

下長者町通西進（東堀川通へ左折）⇒

東堀川通南下（二条通へ右折）⇒

二条城（東大手門）到着

※ 400年前の史実のルートは、中立売御門を出て、中立売通を西進し、堀川通に至りましたが、今回は牛車・馬を使用するため、幅員の広い下長者町通を通るルートとしました。

【本件に関するお問合せ先】

寛永行幸四百年祭実行委員会

（担当：京都市文化市民局文化芸術企画課）

電　話：075-222-4200

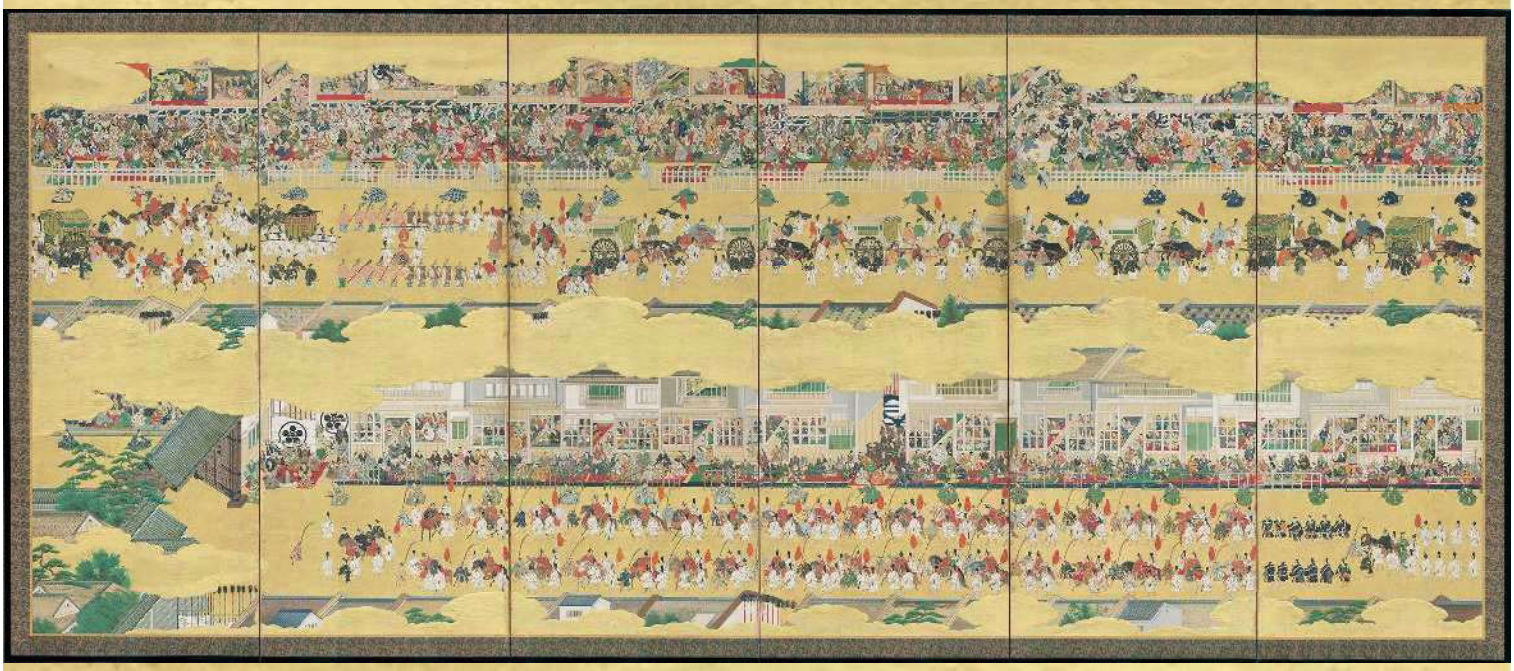
メール：bunka@city.kyoto.lg.jp

「寛永行幸（かんえいぎょうこう）」とは？

「寛永行幸」は、1626（寛永3）年、徳川幕府が後水尾天皇を二条城にお迎えし、5日間に渡って様々なおもてなしを行った、江戸時代を通じて最大級ともいえる行事です。後水尾天皇、中宮で徳川秀忠の息女和子、公家衆ら朝廷方と、3代将軍・徳川家光と全国の大名ら幕府方、総勢約9,000人の大パレードは、大坂夏の陣後の平和の時代の到来を世に知らしめ京都の町を熱狂させました。

後水尾天皇の行列には、朝廷方だけでなく、全国から集まった大名も付き従いました。大名たちの京都での滞在は数か月に及び、その間、様々な準備や交流が行われ、活況を呈した京都では、新たな文化や産業が生み出されました。また、その当時の京都で花開いた「寛永文化」は、各地に持ち帰られ、全国的な文化振興のきっかけともなりました。

上段は「堀川通」。下段は「中立売通」



「二条城行幸図屏風」左隻 江戸時代（京都市指定文化財 泉屋博古館所蔵）

なぜ「四百年祭」を行うのか？

○ 「寛永行幸」で行われた後水尾天皇の壮麗な行列は、町衆の記憶に鮮烈に残り、その後においても「洛中洛外図屏風」に描かれ続けました。こうした京都を代表する地域の歴史的な記憶や魅力を、積極的に発信してまいります。

○ 「寛永文化」においては、茶道や華道、工芸、着物等、幅広い分野の文化交流や産業活動が、上京・中京エリアをはじめとする京都各地で盛んに行われました。こうした時代や歴史的経過を見つめ直すことにより、重層的な京都の文化の継承や発信、多様な産業の振興につなげてまいります。

⇒ 四百年祭では、多彩な分野の文化講座や能楽の公演、京都一円での展覧会企画、装束を復元するプロジェクトなど、多様な事業に取り組んでいます。

事業の詳細は、WEBサイトをご覧ください ⇒

京都市 CITY OF KYOTO

発行：京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課（令和８年９月）
京都市印刷物第081444号

本事業は、文化庁 令和8年度「文化資源活用事業費補助金（全国各地の魅力的な文化財活用推進事業）」の補助を受けて実施しています。